

所属	農学生命科学部	氏名	泉谷 眞実
課題名	地域の未利用資源の流通システムと需要拡大方策の検討		

1. 概要

地域の未利用資源の農業利用およびエネルギー利用が、廃棄物の適正処理や環境負荷の低減、農業資材・エネルギーコストの削減等の面から重要になっています。これらの利用に際しては、原料となる未利用資源の安定的な調達方策、需給の不安定性に対してだれがどのような手法で調整を行うか、需要をどのように拡大するか、等の流通システムに関わる課題が存在します。これらの課題を解決することによって、地域の未利用資源活用の拡大が可能になると考えられます。

本研究では、青森県内の未利用資源である稲わら、食品廃棄物等の農業資材（飼料・堆肥）やエネルギー利用における流通システムを把握し、そこに発生する諸課題を解明し、需要拡大方策を、未利用資源の利用に関わる事業者に対する聞き取り調査やアンケート調査に基づいて検討を行っています。

これまでに青森県産稲わらを対象として、その利用拡大方策の検討を行ってきました。稲わらの利用拡大は稲作農家にとっては、所得の確保や増加方策として位置づけられます。また、畜産農家にとっては安全な国産粗飼料の確保方策として位置づけられるからです。



(1) 青森県つがる市：家畜のエサとして使用する稲わらを収集している風景 県内や遠くは県外の畜産農家が利用



(2) 秋田県佐々保商店：社長からわら縄の作り方をレクチャーしてもらっている弘前大学農学生命科学部の学生

2. 画像の説明

- (1) 青森県つがる市：家畜のエサとして使用する稲わらを収集している風景 県内や遠くは県外の畜産農家が利用
- (2) 秋田県佐々保商店：社長からわら縄の作り方をレクチャーしてもらっている弘前大学農学生命科学部の学生